

「知りたい」、「伝えたい」、「交わりたい」発見の韓国留学

人文学部社会科学科 宮崎 泉

韓国へ留学した。約1年間留学したのに英語力は伸びなかった。いや、出来なくなったのである。先日、電車内で中国語を話す乗客に英語で話しかけられた。切符に書かれた駅名を指しながら「This station...?」「.....」Yesの一言が出てこず、頷くのが精一杯。

言いたいことはたくさんある。にも、関わらず思い浮かぶのは韓国語。語弊があるかもしれないが、良くも悪くもこれが韓国留学の成果である。

大学受験を乗り越えた英語力とは程遠く、頼りない韓国語とともに



【大学本館】



【学生会選挙活動風景】

1年前の3月、私の留学は始まった。まず、搭乗した飛行機で、「コーヒー」が通じず落ち込み、寮の案内室のおじさんとの会話が8割聞き取れない。あとで、気づいたことだが、発音が悪くて通じないのではなく、自信なさげの小さい声だったからだ。

韓国人同士の会話の中でも「え？もう一度言って」のフレーズはよく登場するし、彼らは日本人よりも大きな声で威勢

よく話している気もする。留学した韓国の仁濟大学は、南部の釜山近郊にあり、学生を含め皆方言が強めだ。

波のようなイントネーションで年配の方ほどそれが荒れてくる。弁明に聞こえたかもしれないが、それでもやはり「言葉が通じない、聞き取れない」は外国人にとっての大きな不安要素だ。

授業が難しかったわけではない。身に付けるか捨てるかはやる気次第だ。とはいっても、予習みっちり復習みっちりしたわけでもなく。韓国語が伸びた要因は、「知りたい!!」、「伝えたい!!」、「交わりたい!!」という思いだった。



【学習チュータリング賞状】

前学期に学習チュータリングという大学主催の活動に参加した。チームは韓国人学生4人と私で日韓の文化交流をテーマに半年間活動に励んだ。主題に基づき発表・議論・まとめを繰り返す。主題は様々だ。

南北に関する認識、芸能、風



【海印寺】



【世界遺産 八万大蔵経】



【金井山城頂上にて】

呂文化、地域社会探究、祝祭など。ネイティブスピーカーの前で話すのは、とても恥ずかしい。緊張する。しかし、座ってはいられないほどの伝えたいという気持ちで、身を乗り出して討論した。

前学期は、相変わらず片言の韓国語で話していたが、言語習得よりも貴重で、中身のある習得をした。それは私の強い好奇心が一役買っているのだろう。「韓国って何でこうなの」「日本は昔から...」「私はこう思う」。日常生活の些細なことから時には政治問題まで。

後学期になると授業中に発表や討論の時間が増え、中国や西アジアの話聞く機会もあった。学術的テーマでなくとも、話す分だけ発見がある。会話に参加しなくても聞いているだけで言い回し方や流行語、方言、リアクションの仕方まで学ぶことが多い。

発見があるからこそ授業が楽しかった。発見を求めて映画館にもよく行き、旅行にも行き。知りたい、伝えたい、交わりたいと



【燈籠祭り】

いう気持ちで韓国語が身につけていった。

外国にいるからこそ日本がよく見える。外国にいて日本のことを考える機会を得た。どうしても日本との比較をしてしまう。良くも悪くも多くの違いを知り、異文化の影響を受けた。

帰国後は、韓国で身につけた習慣が日本では受け入れられないものだと実感した。それが可笑しい習慣だから日本に不釣り合いなのではない。全て韓国においては筋が通ったものであり、その地で成り立ってきたものなのだ。日本の良さを知ってもらいたいといつも思っていたがそれは強要するものではなく相手に受容してもらうことだった。友だちはいつも私の意見を拒絶せず関心を向けてくれ受容してくれていた。

留学生である私に周囲が関心を向けてくれたのもあるが、交わりたいという気持ちで多くの人と出逢えた。世界遺産に行きたいと言えば車を出してくれる友達。ホームステイを提案してくれる友達。地元を案内してくれる先輩。朝食の約束をした留学生の友達。恋愛相談まで聞いてくれる先生。たった1年ではあるがここが自分の居場所だとも思えた。

最初から最後まで、「知りたい!!」、「伝えたい!!」、「交わりたい!!」という気持ちで私は留学生生活を終えた。今も新たな発見を求めて部屋に閉じこもっていないで外に出ていきたい気持ちでいっぱいだ。



(終)